

なきごえ



1983

4

大 阪 市
天王寺動物園協会

動物の親善使節 (特別寄稿)

大阪市長 大島 靖

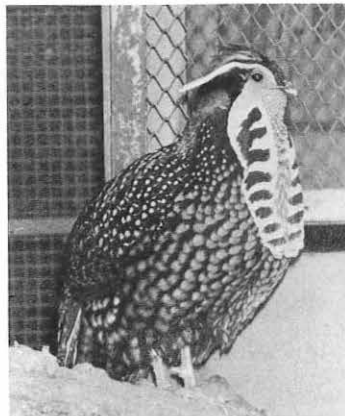


天王寺動物園には、世界各国から友好親善使節としてやってきた動物がたくさんいます。私は、親善使節が元気にやっているかどうかを、確認するために、動物園を訪れる

のを、大変楽しみにしています。いつ来ても、大阪の元気のいい子どもたちで、にぎわっていますし、動物たちも生き生きとしています。子どもたちが、世界各地からやって来た動物に接し、色んなことを勉強しながら、少しでも友好親善に関心を持ってくれたらと思います。動物園でのひとときを過ごしています。

さて、動物の親善使節ですが、昭和45年の万国博覧会の際、参加国からインドゾウ、エチオピア・ライオン、キーウィを贈られたことは、よく知られていますが、大阪市の姉妹都市や友好都市との動物交流も盛んに行われています。

アメリカのサンフランシスコ市へは、天王寺動物園から生後5ヶ月の日本鹿を一つがい贈り、サンフランシスコからリカオン4頭を贈られました。リカオンは、アフリカ原産の犬科の動物で、ハイエナによく似ています。その名は、ゼウスの神によって、狼に変えられた伝説の暴君に由来すると言われて



ベニジュケイのオス

ます。ブラジルのサンパウロ市からは、ブラジル産の珍しい動物、オオハシドリ1羽、フサオマキザル4頭、エメラルド・ツリー・ボア(大蛇)2頭がやって来ました。

中国の上海市

とは、これまで4回にわたり動物交換が行われ、飼育技術者の交流も続けられています。最初は、昭和49年8月に、大

阪・上海両市の友好都市提携を記念して、大阪からアシカ1つがい、フンボルトペンギン2つがいを贈り、上海からマナヅル1つがいと、クロオオカミ1つがいを贈られました。残念なことに、クロオオカミは、54年1月、56年1月にそれぞれ死亡し、関係者を悲しませました。

2回目は、友好都市提携3周年を記念して、大阪からチンパンジー1つがい、上海からベニジュケイ1つがいを交換しました。ベニジュケイは飼育に成功し、12羽に繁殖しています。3回目は、大阪からキリン1つがい、上海からコウノトリを交換しました。4回目は、昨年10月で、大阪からはマントヒヒ1つがいと、アシカのオス1頭を贈り、上海からは、新たにクロオオカミ1つがいが贈られました。

クロオオカミは、アジアの山岳地帯などに生息する毛の荒い犬科の動物で、歯の構造は犬とよく似ていますが、犬歯が犬より大きいのが特徴だそうです。



1874年に、チベットで発見され、日本で飼育されているのは、天王寺動物園だけという珍しい動物です。全身が真黒で、体長は120cm、体重は30kgで、精悍な顔つきをしています。今回、中国側のご好意で

贈られたのは、「平平」(ピンピン)と、「義義」(イーイー)の1つがいですが、さる2月22日早朝、初めて赤ちゃんが誕生したときいて、私も大変よろこんでいるところです。早速、上海市の動物園へ電話で知らせましたところ、上海市の方も大変よろこんでくれました。赤ちゃんは、いま母親のもとで、授乳中だそうなので、まだ公開されていませんが、順調に生育すれば、春ごろに公開できそうですので、そのときは、ぜひ見に行きたいと楽しみにしています。

オーストラリアのメルボルン市からは、ワライカワセミとヤブツカツクリがそれぞれ1つがいやって来ましたので、大阪からは、ハナジロゲノン3頭を贈りました。

皆さんは、キーウィという動物をご存知でしょうか。同じ名前の果物も有名ですが、キーウィは世界的な珍鳥で、ニュージーランドの国鳥でもあります。昭和45年7月、日本万国博覧会を記念して、ニュージーランド政府から贈られて以来、大阪の子もた

ちに、親しまれています。キーウィの名は、鳴き声に由来するといわれており、夜行性で、ミミズを常食し、飼育が大変難しいそうです。45年に贈られたメスは、残念ながら病死しましたが、昨年7月に、キーウィのヒナ3羽が贈られました。これは、ニュ



3羽のキーウィのヒナ

ージーランドのオトロハンガ動物学協会(園長=バリー・ロウ氏)のご好意によるものです。この協会は、キーウィなどニュージーランドに生息する動物の繁殖・飼育の調査・研究を行っています。贈呈式には、バリー・ロウ園長ご夫妻が出席され、大阪の子どもたちが感謝の花束を贈りました。ヒナは、体重約800g、年令6ヶ月(いずれも当時)で、順調に生育しているときいています。

キーウィが飼育されているのは、世界で9ヶ国、50羽だけであり、日本では天王寺動物園だけです。このように飼育が難しい珍鳥キーウィですが、天王寺動物園では、珍しい記録をつくりました。それは、45年に贈られた「ニュージー君」が、飼育担当職員の歌声に唱和するように、「キー」「キー」と鳴くそうです。私もその録音テープを聞き、早速ニュージーランドの関係者にお知らせしました。先日、ニュージーランド内務省政務次官トンプソンさんが、市役所にいられたので、そのことをお話ししたところ、「ニュージーランドから大阪へ飼育の研修に來なければ…」と言って驚いておられました。録音テープもさしあげましたが、これは天王寺動物園の飼育技術の高さを示す、いい例だと思います。

ニュージーランドからの親善使節キーウィを、昼間見られるように、夜行性動物舎の建設に近く着手しますので、楽しみにお待ちください。

昭和56年11月、アメリカのサンディエゴ市で、日米市長会議が開かれましたが、そのとき、サンディエゴ動物園に、大阪からタンチョウヅル1つがいを贈りました。これは、13年前の万国博覧会で、アメリカ合衆国政府代表を務められたハワード・チャーノフ大使が、たまたまサンディエゴ動物園の名誉理事をされており、タンチョウヅルを頂きたいと要望されていたものです。タンチョウヅルは、特別天然

記念物で捕獲できませんし、文化庁も輸出に消極的でした。そこで、天王寺動物園で生まれたタンチョウヅルを、文化庁の許可をうけて、12年ぶりで贈り、約束をはたしたわけです。タンチョウヅルの近況は、ときどき知らせてくれますが、元気の様子ですし、



サンディエゴ動物園でのタンチョウ贈呈式

ぜひともアメリカで日系二世を誕生させ、日米友好親善にいつそ貢献してほしいと願っています。こんどのは、飼育担当者の優れた技術と熱意が、難しい動物交流を実現させたといえましょう。

今、私が最も関心と熱意をもっているのが、世界の珍獣コアラの誘致です。先日、オーストラリアのクィーンズランド州国立公園の野生動物局長であるレイバリー博士が大阪にいられました。レイバリー博士は、コアラの専門家で、日本の動物園で、コアラの飼育が可能なかどうかの調査のために、来日された機会に市役所へ立ち寄られたものです。私は、博士に、「天王寺動物園は、全国的に有名な動物園でいろいろな珍しい動物の飼育に成功している。飼育技術には、自信があります」と説明し、博士の調査に協力するとともに、コアラ誘致の際の協力をお願いしました。すでに、大阪市では、コアラ舎建設計画、ユーカリの栽培計画を進めており、近く、飼育担当者をオーストラリアに派遣するなど、受け入れ準備を進めさせています。昭和64年の市制100周年には、コアラを誘致して、大阪の子どもたちによるこんでもらいたいと思っています。

世界各国からやって来た動物親善使節は、これからも多くなり、大阪の子どもたちの前で、愛嬌をふりまき、あるいは端麗な姿を通して、友好親善を深めることでしょう。動物園にやって来る子どもたちは、動物を通して、世界の国々を理解し、動物を愛し、いたわる心を芽生えさせることでしょう。

こうした体験とおして養われた、動物に対する愛情が、絶滅の危機に直面している野生動物の保護と繁殖につながれば、動物交流は、さらに大きな意義を持つことになるのではないのでしょうか。

堀 浩



私が横浜市野毛山動物園に就職したのは、18年前の昭和40年1月のことでした。当時動物園といわず、横浜市野毛山遊園地というのが正式な名称でした。昭和39年6月までは横浜で唯一つの遊園

地として人気があった場所でしたが遊園地地区の地下には水道用貯水池がありました。横浜市の急激な人口増加に伴い、貯水池の拡大工事を実施しなければならず、遊園地地区が閉鎖になったのです。同時に入園料の徴収も廃止となり、小さな動物園だけが残された、いわゆる過渡期にあったようです。そのためか、初めの3年間は飼育職員までもが夜間作業となるまで動物舎の建設、園路の舗装等に汗を流し、工事の合間をみて本業である病院や飼育をしていたのが今では懐かしくおもわれます。昭和47年、名称が横浜市野毛山動物園と改められ、名実共に動物園の仲間入りができ我々の努力がやっと認められたような気がしました。

私も今では動物園人の一人であると自負していますが、獣医大学時代、そして動物園の仕事につくまで、動物園がどのようなところか、獣医として就職したらどのような仕事をするのか全く無知の状態でした。現在自分のまわりにいる動物園人といわれる仲間にはこの世界への入り方として学生時代から動物が好

で専攻も動物に関したものを勉強し、暇さえあれば動物園に通い詰め、憧れの動物園に就職という「目的達成型」と動物は嫌いではないが、動物園に全く関心なく、気がついたら動物園に就職していたという「成り行き型」の2通りがあるようです。私はもちろん後者に分類されるのですが、一度この世界に入ると魅力にとりつかれ、動物園の虜になってしまうのはどちらの型でも同じことのように思えてなりません。

横浜市も人口が280万人を越え、これまでの小さな動物園では対応できなくなり、都市化にともなって牛や馬、豚などを話には聞くけど見る機会がない子供達のために家畜だけを集めた「ちびっこ動物園」を昭和54年に横浜西部に開園し、なお昨年の昭和57年、檻の連なる鉄とコンクリートジャングルから開放した公園風の「金沢自然公園動物区」を南部に開園しました。この金沢自然公園は野毛山の4倍も広い面積を持っていますのでこれまでと違ったことができそうです。私もここの分園長として17年住みなれた野毛山から配転したのですが完成まであと4年もかかる現場ですからまたまた万屋を發揮しなければなりません。前後になりましたが私の生まれは大阪の豊中です。幼い頃は天王寺をはじめ宝塚などの思い出があります。今後も大阪に負けないよう頑張って万屋をつづけるつもりです。

(横浜市金沢自然公園動物区 分園長)

なきごえ4月号もくじ

動物の親善使節	2・3
動物と私	4
クロオオカミ	5
動物園グラフ・動物園日記	6・7
天王寺の動物たち	8・9
37年をふりかえって	10・11
キーバズ・アイ ②7	12
動物園ニュース	13

表紙の写真説明

“タンチョウ”
北海道、シベリア東南部、中国東北部などに生息するタンチョウは、その名のとおり頭頂が真紅の美しいツルです。当園では昭和51年以来、7前連続13羽の繁殖に成功しています。

(撮影：農本武志)



“すくすく育つクロオオカミの赤ちゃん”

2月22日に生まれた8頭のクロオオカミの赤ちゃんはすくすく育っています。

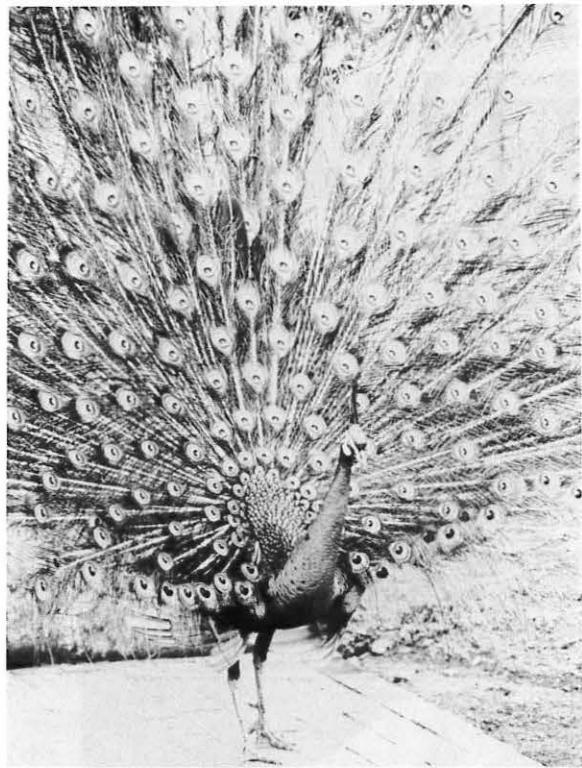
生後1ヶ月頃から、自然・人工共に離乳食を食べ始めましたので、お目見えももうすぐでしょう

(撮影：神原安昭)

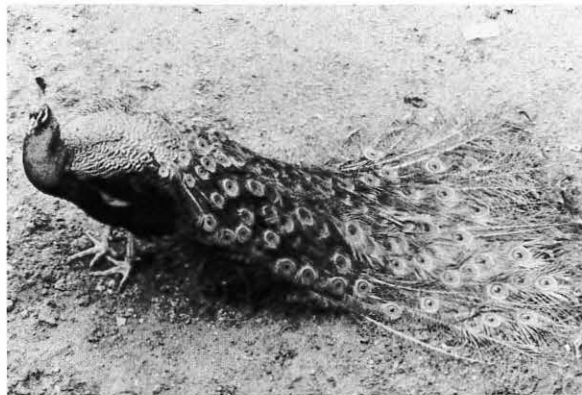
動物園グラフ

“クジャクのディスプレイ”

春の訪れとともに園内にも花が開いたようなクジャクのディスプレイが見られるようになりました。上尾筒を立てて眼状紋の羽をひろげると、その美しさにはメスのクジャクならずとも眼を見はらされます。(撮影：宮下 実)



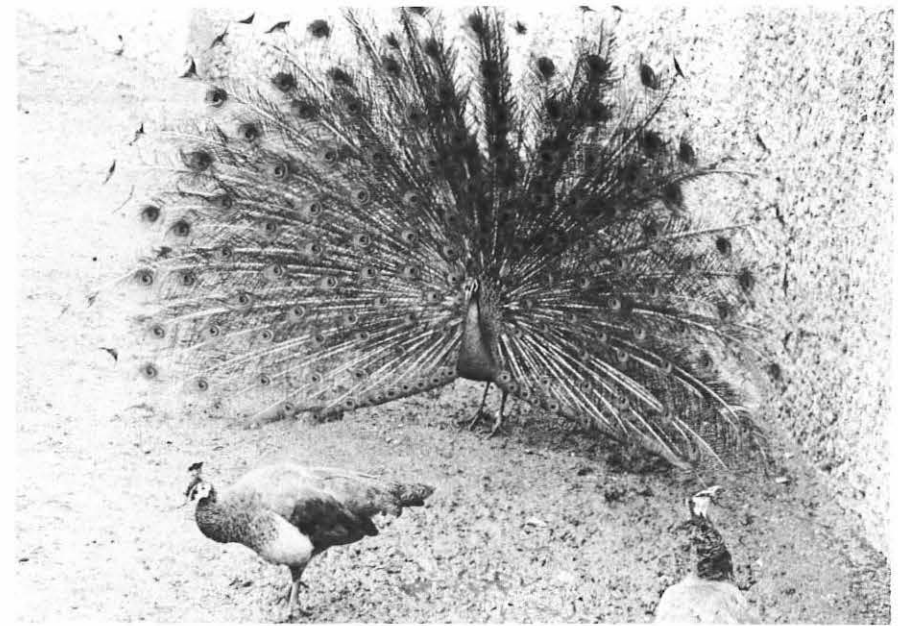
マクジャクのディスプレイ



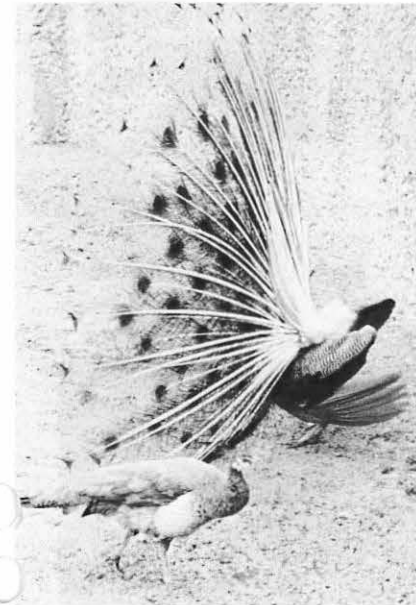
羽をたたんでもその美しい羽はなかなか魅力的。



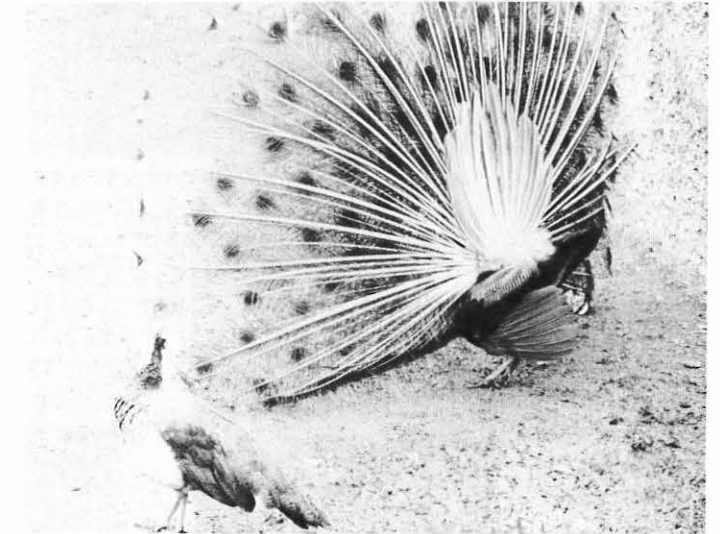
あちこちで花が開いたようにディスプレイのまっさい中。



インドクジャクのディスプレイ
さあ、ボクの美しさをよく見てよ!



メスの方を向かないとお尻を見られるヨ!



あーあ、後から見たクジャクのディスプレイなんて、とてもサマにならないね。

2・3月の動物園日記

- 2 / 20. ハイイロカンガルーの検便を行ないました。クロオオカミの雌の乳房が張り、腹部が目立って大きくなってきました。出産ももう間近です。
- 2 / 22. クロオオカミの子が8頭生まれました。定例飼育研究会が行なわれました。
- 2 / 23. クロオオカミの子4頭のみを、人工哺育するために、親から引き離しました。
- 2 / 24. オグロワラビーの子供が、母親の袋の中で順調に成育しています。
- 2 / 25. クロオオカミの父親の換毛が始まりました。

- 2 / 26. 水禽放養舎の巣材上げが朝のうちにこなされました。
- 2 / 27. キーウィのヒナ3羽の体重測定を行ないました。ダイが一番重く、1850gもありました。
- 2 / 28. 昭和57年度第3回近畿ブロック動物園技術者研究会が当園で開催されました。
- 3 / 1. エミューのヒナが1羽人工ふ化しました。南園日本庭園池のアカミミガメ1個体が冬眠より目ざめました。
- 3 / 2. コンドルが産卵し抱卵も始めましたが、惜しくも割ってしまいました。
- 3 / 3. 大阪府立百舌鳥学園養護学校の触察指導を

- 行ない、その指導風景の取材が朝日新聞社よりありました。
- 骨折で保護されてきたヒドリガモが完全に治ったので、自然復帰させました。
- 3 / 4. ラマの雌“ホワイトイー”の出産が間近にせまっているので、放飼場の中に山土やワラを搬入しました。
- 3 / 5. 第4巢のシュバシコウの交尾を確認しました。
- 3 / 6. ボランティアの例会が行なわれました。今回は、兵庫医大の朝日稔先生を招き、「野生動物保護と動物園」と題して講演と質疑が交わされました。

- 3 / 10. ヤマシギを1羽保護しました。ブラックバックが交尾しました。ハイイロコクジャクが産卵を始めました。
- 3 / 11. ウグイスを1羽保護しました。
- 3 / 12. クロオオミの子供は人工・自然哺育ともに順調に育っています。
- 3 / 14. ヤギが3頭生まれました。
- 3 / 15. アカオザルが下痢するため、治療を開始しました。
- 3 / 16. 頭骨を骨折したタヌキを保護しました。



仲の良いオオサイチョウ夫婦

§ はじめに

オオサイチョウという鳥を皆さんご存知ですか？恐らく殆んどの人が、聞いたことも無い、とおっしゃると思います。しかし、この鳥の飼われている北園の小鳥の家の前にはいつも人だかりができる程、動物園の人気のひとつなのです。これは奇妙な姿、飛ぶ時の大きな羽音、人をあまり恐れない態度、といろいろと面白い特徴を持つ鳥だからでしょう。

今月はこの面白いオオサイチョウのお話をしましょう。



体に不釣り合いな程大きな嘴

§ ハンマーのようなクチバシ

この鳥の名前の由来は嘴の上にある突起です。体に不釣り合いな程大きな嘴は長さが4、50cmもあるのですが、その上にコブのような突起が付いています。オオサイチョウよりもひと回り小さなサイチョウでは

この突起がまるでサイの角のようにそり返った格好をしています。そのため、サイ鳥という名が付いたのです。英語名でもホーンビル、つまり角の嘴という名が付いています。

特にオオサイチョウは人を恐れることがあまりなく、飼育の人が入ると興味深げにピョンピョンと近寄ってきて、止まり木の上からこの中身は十分つまっているかしら、といった調子でこの大きな嘴で人の頭をつつきます。この一撃は大変キビシイもので頭に穴があいたかと思える程です。慣れない新人が特にこれをやられ、慣れるまではヘルメットが掃除や給餌の際の必需品となります。オオサイチョウには悪気はないのですが、やられた人はたまったものではありません。



手前がサイチョウ。この突起がサイ鳥の名前の由来となりました。

慣れない新人が特にこれをやられ、慣れるまではヘルメットが掃除や給餌の際の必需品となります。オオサイチョウには悪気はないのですが、やられた人はたまったものではありません。

こんなに強い嘴ですが、実は中は空です。つまり、中は鉄骨状の梁になっていて大きく丈夫な割にはその重さは大変軽いのです。これは空を飛ぶ鳥にとって体重を軽くする上で大変大事なことです。



係員から投げられた卵黄を上手にキャッチ

また羽の形態からきているのですが、飛ぶ時、バッサ、バッサと大変大きな音がします。オオサイチョウは翼を広げると2m近くにもなる大きな鳥ですが、それにしても大変大きな音がします。静かな密林の中で初めて野生のオオサイチョウが飛ぶところを見たある人が「まるで蒸気機関車が近付いて来るような音だった」と、形容したり、1キロ先からでも聞こえた、という位大きな音です。

こうしてオオサイチョウは東南アジアの密林の中をバッサバッサと大きな音をたてながらエサを求めて飛んでいるのです。動物園では果物を中心にリンゴ、トマト、ミカン、パン、ゆで卵等を与えていますが野生では果物以外に虫やトカゲ、時にはネズミなども食べています。

§ 繁殖

しかし、このオオサイチョウの一番の奇妙な点は

何といってもその巣作りでしょう。一生連れ添うと言われる程仲の良いオオサイチョウの夫婦は雨期の頃、巣作りを始めます。この時期を選ぶのはエサが豊かになることと巣を作る際の重要な材料である土が雨のためにやわらかく取りやすくなるせいだと言われます。高さ4、50mもある高い木の洞がオオサイチョウの巣になります。



シワコブサイチョウ。この種は突起があまり大きくありません

高さ4、50mもある高い木の洞がオオサイチョウの巣になります。

まず適当な巣を見つけると2羽は協力して地面から土を運びます。そして運んできた土や自分達の糞やエサの残りを唾液で固めながら洞の入口を閉じ始めます。ある程度入口が閉るとメスは中に入り、オスは外から、メスは中から入口をせばめてゆきます。そして最後にはメスの嘴が出る程の穴を残して入口はふさがれます。この頃閉じ込められたメスは卵を産みます。もちろん外へ出られないメスのためにオスはせっせとエサを運びます。手に持ってエサを運ばせませんから、口にくわえたり、あるいは食道にためたりして運びます。卵の数は2、3個とされていますが正確なところは不明です。とにかく中を見ることはできないのですから。

これはヘビやワシ、サルなど外敵の多いジャングルの中でメスと卵やヒナを守るためのオオサイチョウの生活の知恵なのでしょう。糞はちゃんとおしりを穴にあてがってピュッと外へ飛ばします。ですから



日本で唯一羽のムジサイチョウ

巣の中が汚れることはありません。動物はみな清潔好きです。卵がかえってもメスは中に居続けヒナが飛べるようになる2、3週間前にやっと中から穴をこわして出てきます。そしてまた閉じ直します。これはヒナが大きくなってオス一羽ではとうていヒナの食欲を満足させられないからでしょう。

今度はオス、メス2羽でせっせとヒナにエサを運びます。こうして大きくなったヒナは自分で中から入口をつぶして外へ出、生れて初めて外の空気に触れるというわけです。しかし、ヒナは羽ばたきもできないところにいたわけですからまだうまく飛べません。エサも自分では取れませんから巣から出てもまだ数日は親のスネをかじって暮らします。

今天王寺には2ペアのオオサイチョウ夫婦が飼われています。まだ日本中のどこの動物園でも繁殖したことがないこの鳥をぜひ今年こそ繁殖させ、この奇妙な習性とヒナに対する細やかな親鳥の愛情を入園される方々にお見せしたいものだと考えています。

(飼育課・獣医師：長瀬 健二郎)

37年をふりかえって

無条件降服という悲惨な結果によって終戦を迎えた昭和20年8月、その秋復員兵の一人として我が家にかえった私は、年老いた父母と共に米作りに精を出していた。そんなある日、寺の院



主が祖父の法事に訪れ色々雑談しているうちに、天王寺動物園の獣医をしている人を知っているが、紹介状をもって一度行って見ないかと声をかけられた。それが動物達との出会いでもあった。最初の日、これからお世話になろうとする職場を見学させて頂いた。動物園の中は戦災で全く荒れはてており、園内いたるところに青々とした野菜や芋畑があり、アヒルやガチョウの住み家である水禽舎の破れたアミ目の間からは野生のカラスが自由に出入りしていた。人々の生命をうばいすべてを犠牲にしたあのろわしい戦争、そして敗戦。その傷跡がやせた動物や焼けこげた動物舎の中にもその影が残されていた。国敗れて山河有り、の思いを強く感じたことが遠い思い出の一つとして残っている。戦争中軍需物資の増産によって回収された鉄柵から変わった木柵の修理に、日の暮れるのもわすれるほど忙しい毎日を送ったのもちょうどその頃であった。

ある冬の朝、私の持ち場である鶴舎の掃除に行くとき氷のはった池の中でタンチョウのメスが立ったまま動こうともしない。近づいてみると栄養失調で息たえていた。苦しい日々を昨日まで生き抜き夜半の寒さにたえきれなくなったのだろうか、そんなあわれな鶴の死体をだきかかえた時、言い知れぬ淋しさとむなしさがわきおこったのが記憶に残っている。



それから2、3年後のある飼育研究会の場であったと思う。もの言わぬままはかなく死んでいった多くの動物達の墓を作ろうと話したところ、皆の賛成の言葉を得てわずかな募金をつのり、作業のあいまに四寸角の墓標を作って四季の草花を添えて供養するようになった。入園されるお客さんの中にも時おり合掌して下さる人もいて、みんなで協力しあったよろこびを感じたものである。私達飼育者としてはささいな行為であったが、ある時愛護者の目に止まり、府民や市民へ協力を呼びかけてくださったおかげで現在ある立派な慰霊碑が建立された。それから毎年秋の彼岸日には盛大に供養儀式が執り行われている。私が今日まで30数年も歩んで来た道のりの中で一番うれしく希望をもったのは昭和25年のゾウの春子、百合子の入園である。船の甲板から車上に積み替えられた檻の中のかわいい子象は、小さい鼻を左右に振りながら初めてみる日本の大阪の町にびっくりしたようだった。沿道で小旗を振りつつ出迎えて下さった市民の皆さんには、現在のパンダなみの動物に見えたことだろう。戦後、大阪に初めてきた生きた象をみたい、象を知らないわが子に見せてやりたい、そうした思いをもったたくさん入園者が連日



長蛇の列を作り、そのため昼食抜きで門の整理や案内に忙しく立ち働いたのも今はもう遠い思い出の一つである。待ちこがれた2頭の象の入園後1年を経た昭和26年、トラやライオン、ヒョウ等の猛獣類が次々に入園して来た。今までその檻で飼われていた孔雀やにわとり、豚等は他の檻に移され、修理補修された檻中で百獣の王の威厳そのままのたくましがやっとな動物園らしい雰囲気を取り戻しつつあった。そうした翌年、拡張工事が行われ焼け跡のまま放置されていた武徳殿が吸収され、また住友家の庭園の一部であったいわゆるロックガーデンの部分が整地されて、前面に脱出防止用の堀のある無柵放養式の猛獣舎が建設された。東西に間仕切った広い運動場の中で数頭のトラやライオンが自由にたわむれる風景は、これからの時代にふさわしい動物園の姿であった。ようやく世の中も平和が続くようになり、生

活面でも余裕ができ、入園されるお客さんの中にも家族連れで自動車利用が増え始め、駐車場が必要となってきた。長い間放置していた東門を新しく建て直して、その前の公園敷地を取り入れて駐車場を開設した。続いて35年には円型のゴリラ舎が完成した。翌36年から改造9ヶ年計画に取りかかり南園東方旧公園敷地に日本鹿放飼園が、北園旧放養舎跡に見事な水きん放養池が新築された。1年後の37年には南園象舎の西側に南向きに運動場のあるキリン舎ができた。その北側に猿アパート、ペリカン舎等が続き、北園ではオランウータン舎の完成をみるに至った。9ヶ年計画4年目の昭和40年には広い天王寺グラウンドを編入してかもしか園を新設して総面積10万4千㎡の敷地を有する西の横綱格たる動物園に成長した。そして開園50周年を迎え記念行事が執り行なわれたのも私にはうれしい思い出として残っている。それから後の42年からペンギン舎、ラクダ舎、カンガルー舎、カバ舎等が完成して45年のハ虫類舎、バーバリーシブ舎等の建設完了をもってようやく動物舎の9ヶ年計画は終了した。その間動物面では日本で最初のオリックスの誕生や、セイランの人工ふ化、ヨーロッパコウノトリのふ化などがあつた。

また、戦後最初の親善動物使節として韓国ソウル動物園にトカラ馬を贈り、オーストラリアからはワニをいただき、姉妹都市サンフランシスコとは動物交換を行って親善の輪を深めた。又ニュージーランドから万博記念動物としてキーウィが寄贈され、日本で初めての珍鳥としておめみえした。また象、ブレイリードッグ等世界各国から寄贈を受け、いよいよ世界の動物園と肩を並べ平和と親善を担う動物園に発展した。私には昭和21年の就職当時から25年の象の入園の前までを敗戦処理の時代(戦後の跡かたづけ)、25年から以後45年頃までを発展をめざした建設の時代であったと思っている。昭和46年以降になると、友好、親善を旗がしらとして各国動物園との交流が盛んになり、48年には姉妹都市サンフランシスコとの都市提携15周年記念として動物の交換を行なった。その年国際動物園長会議の日本視察団16ヶ国50名の代表者が来園した。そして翌49年に日中友好として上海市及び北京市各動物園との親善記念動物の交換を行ない、またアメリカ・サンディエゴ動物園からシンリンオオカミの寄贈を受けた。明けて昭和50年、大正4年の開園以来60年を迎えて、私としては昭和40年の50周年と併せて2度目の記念行事であった。

その後はタンチョウやモウコガゼル、クロオオカミなど親善動物に次々と二世が誕生したし、数多くの珍しい動物が繁殖した。しかし生まれる陰には死んでいく動物もあり、私が一番印象に残っているのは、当園で最長寿(41年)であったエミユウの大往

生である。私にはあのエミユウには深い思い出が残っている。ちょうど今から30年程前に担当していた頃、ある日心ない入園者から豚油を浸したパンを与えられ約1週間程寝たきりの状態が続いた事があつた。獣医の指示に従って薬液の入った水をのませたり、ゆでたまごをこまかくきざんで魚粉と交ぜ合



エミユウ

わせた飼料を与えたり、いろいろな治療によって回復のきざしをみた時はほっとして思わず抱きしめてしまった。昭和21年に最初は風変りな職業と思いつながら飼育係として37年間勤めてきたが、その思い出を全て書きしるすのはなかなかむずかしい。ただ私の脳裏に今なお残るのは戦後のきびしい時代に生き、苦しい食糧難にたえながら生きつづけた無言の動物達が、裏切の事もなく時の流るるままに従いつつ、大人や子供達の入園者にほほえみと慰めを与え、あえなく消えて行ったことである。当時の苦しみを共にした私自身には永遠に残る思い出である。戦後園内いたる所が野菜や芋畑であった頃、新聞紙上で動物農園と掲載されたどん底時代の動物園や、代表的な動物の象の入園によって市民から見直され毎日数万をこえる入園者で整理に汗だくになりつつ希望と期待をもった頃の動物園、むき苦しい檻式の動物舎から無柵放養式への建て替えによって自然と動物の調和をとり入れながら改造を進めた建設時代の動物園、又現在のように世界の平和を願いつつ日米親善あるいは日中友好と世界の国々に動物の使節を通じて大きく開花しようとする発展繁栄の時代を迎えつつある動物園など30数年の勤務生活の中で動物と共に汗にまみえながら時代の流れをかいまみた事は私の生涯にとって大きな収穫であった。

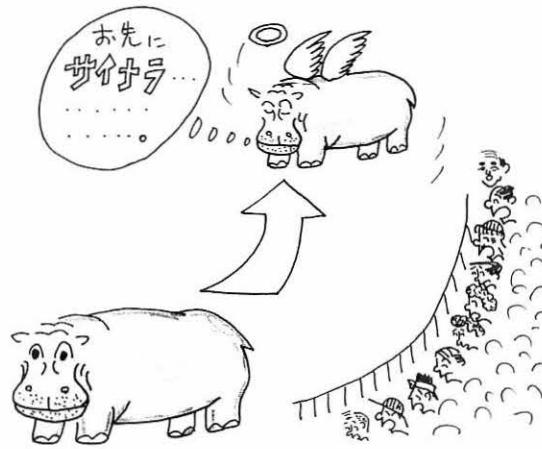
最後にこの4月末日をもって退職させて頂くに当たり、長い間御指導、御協力を頂きました皆様へ厚くお礼を申し上げますと共に今後の御協力をお願い申し上げます。

(飼育課：中尾磯吉)

「あるカバの死に想う」

ちょっと前の話になるが……。今年1月、オトソ気分も抜け始めた11日の早朝、人気者だったカバのデブ子婆さんが昇天した。昭和27年10月入園、以来、実に30年にも渡る長い間、大きな口と愛嬌のある顔、ボリューム感あふれる豊富な体つきで入園者を楽しませていたが、ここ2～3年来、白内障を患ってからというものの衰えが目立ち始めていた。とりわけ昨冬、♀のフトシの牙に傷ついていたのは、そのショックからか、めっきり精彩をなくしてしまった。加えて剖検の結果、肝臓に悪性シュヨウが幾つも出来ており、後々の詳細検査の結果、肝臓ガンで死亡した事が判明した。物言わぬ動物達が内臓の病いを患うとヤッカイである。外見からは察する事の出来ない体の奥底で、非情な病魔は徐々に年老いたその巨体をむしばみつつあったのだ。

入園以来長らく一頭のみ飼育され、淋しい青春時代を過ごしていたが、昭和43年フトシ君が“ムコ入り”するや、以後7回の出産を数え、コンスタントに仔を育てあげた優秀なカバだったのだが……。全盛時には飼育担当者を手こずらせた女傑も、寄る年波に加え、創傷によるショックや肝臓ガンなるヤッカイな病魔との闘いには勝てなかったらしい。連日に渡る獣医と飼育担当者の懸命な治療も効をなさず、来世への旅立ちを余儀なくされ、永年住み慣れた獣舎の片隅で静かに彼岸の旅へと旅立って行った。達者な頃には2トン近くはユウにあると推測された堂々たる体軀も、死亡時には1トンそこそこの



病魔に敗れた、無惨な姿になり果てていた。昭和27年入園というから、小生未だ幼なかりし頃、祖母に手をひかれ、あの時みたカバは……。あのカバはまさしくデブ子であったに違いなかったのだ。歳月はとどまる事なく流れ去り、縁あって園に奉職、今、こうして彼女の最期を見とった事につけ、改めて人生における巡り合わせの複雑さを見た気がしてならない。彼女は今、遠い星の彼方へと去り、残してきた子孫の成長を満足気に見守ると共に、例の大きな口を開き、アクビをしながら下界の人間どもの騒々しさをノンビリ眺めているに違いない。(文とイラスト 飼育課：葭谷文彦)

無責任ママ



産卵ハ一っでも体ハ七っほしい!

現在、ダチョウやレアのいる走鳥エリアには7羽の七面鳥がいます。非常にたくましい鳥で、自分の何倍もあるダチョウやヒクイドリにも負けることなく、餌もきっちり食べていますし、おとなしいエミューは彼らのパワーにはタジタジの毎日です。さらに繁殖力も旺盛で、真夏を除けばシーズンの区別なく産卵がみられます。あまり増加しても困るので、適

当にとりあげていますが、私の目のつかない植込みの中で抱卵し、ある年では正月早々、ふ化間なしのかわいいヒヨコをひきつけて現われびっくりさせられた時もありました。そんな事もあって、動物園での初卵と終卵はこの所、七面鳥が座をしましているようです。さて今回は、エミューの運動場の植込みに3月中旬に産卵しているのが見られ、需要もあつたので抱卵させることにしたのですが……。気づいた時には4個で、その後、毎日2個づつ増えました。ということは、2羽以上の鳥が同じ所に産卵しているわけです。しかし、卵の数が増えていくのに、一向にどのメスも責任をなすりつけているのか、たよりにしているのか、抱き始めようとはしません。ようやく、一週間程たって10個以上になってから、一羽のメスが抱卵を開始しました。その後も卵の数は増えて下旬には18個にもなり、一羽のメスではみださんばかりです。私も今後のなりゆきには興味があり楽しみなのですが、さて、もう一羽の無責任ママは何を考えているのでしょうか?(文とイラスト 飼育課：大野尊信)

動物園ニュース

§ 放養舎の巣材準備



2月26日、水禽放養舎にシュバシコウのための巣材の搬入が行なわれました。地上10mの巢台8基に次々とヤナギの小枝が上げられました。3月初めからは、繁殖行動がしきりに観察されていますので、まもなく産卵が始まり、今年もたくさんのヒナがふ化することでしょう。

§ クロオオカミ順調に成育!!

2月22日に産出したクロオオカミのニュースは、先月号でお知らせしましたが、その後人工哺育の4頭も、親が育てている4頭も共に順調に成育しています。

人工哺育で育てているものは、生後15日目ぐらゐから目が開き始め、17日目ぐらゐから歯もはえはじめました。

体重も約1ヶ月で、約400gから4倍の約1600gまで増加し、病院内を元気に走りまわっています。3月20日からは離乳食の給餌を開始していますので、かわいい子供たちのお目見えも、間近のことでしょう。

§ 出産シーズンが始まる!!

3月に入って、いよいよ本格的な出産シーズンが始まり、メンヨウ、ヤギ、バーバリーシープなどが生まれています。

特にヤギの出産ラッシュは記録的で、3月12日から18日の1週間に11頭の子ヤギが生まれています。ところが、母ヤギがめんどろをみなかったり、死亡したりしたため、5頭を人



現在の飼育動物数

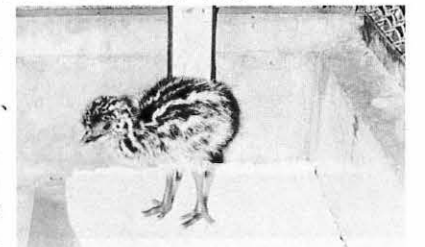
(1983年2月28日現在)

哺乳類	8目	96種	395点
鳥類	20目	202種	709点
爬虫類	3目	43種	96点
計	31目	341種	1200点

工哺育で育てています。動物病院は、人工哺育しているクロオオカミともども託児所さながらの大にぎわいです。

また、袋の中で順調に育っていたオグロワラビーの赤ちゃんも、3月20日に初めて袋からかわいい顔を出しました。

鳥類では、3月11日に今年1羽目のエミューがふ化しました。例年どおり、餌付もうまくゆき順調に育っています。また、キジ類の産卵は3月10日のハイロコクジャクを皮切りに、カラヤマドリ、セキショクヤケイ、シマシヤコなどの産卵が始まっています。



カンムリシギダチョウも3月20日に初卵の産卵がみられました。それぞれ、ふ卵器で人工ふ化中ですので、まもなく、続々ふ化のニュースをお知らせできることでしょう。

§ 近畿ブロック動物園技術者研究会開催

2月28日、当園で近畿ブロック動物園技術者研究会が開催されました。近畿地区の11の動物園から33名の参加者があり、京都市動物園の「フロリダキングスネークの再産卵について」など9題の研究発表があり、熱心な討議が行なわれました。

§ 休憩所完成

北園、水禽放養舎前に藤棚の休憩所が完成しました。3基のベンチの設置と、藤の植樹も終了し、優雅に飛ぶ鳥たちの姿を見ながら休憩していただく

ことができますので、御利用下さい。

◎ お知らせ

春の動物園祭が、4月24日から5月5日までの日曜、祝日に開催されます。期間中、ステージでの人形劇、大阪動物園ボランティアによる動物クイズ当園獣医師による動物相談などを行ないますので、ぜひ御来園下さい。

* 休園日のお知らせ *

動物園の休園日は毎月第3月曜日です。6月までの休園日は下記の通りです。

4月18日(月)、5月16日(月)、6月20日(月)

開園時間は午前9時30分～午後5時までで、午後4時に切符売り止めになります。

すてき満喫

近鉄クレジットカード



- 全国の近鉄百貨店グループ・都ホテチェーンなどでワイドにお使いいただけます。
- カードをご提示いただくだけで30万円までのお買物をお楽しみいただけます。
- 繰り延べ払い(リボルビング方式)・一回払い・ボーナス一括払いの3つのお支払い方法がございます。
- 入会資格は20歳以上で2年以上お勤め、または自営の方です。

近鉄百貨店

お申込み・お問合せは各店クレジットセンター
アベノ店・上本町店・東大阪店・奈良店・西京都店・東京店

近鉄百貨店グループ

四日市近鉄・京都近鉄・岐阜近鉄・枚方近鉄・和歌山近鉄・近鉄松下(徳山)・別府近鉄・三交百貨店(松阪・伊勢)・近鉄東海ストア

ひかりのくに

監修 阪口浩平
指導 宮武頼夫

オールカラー

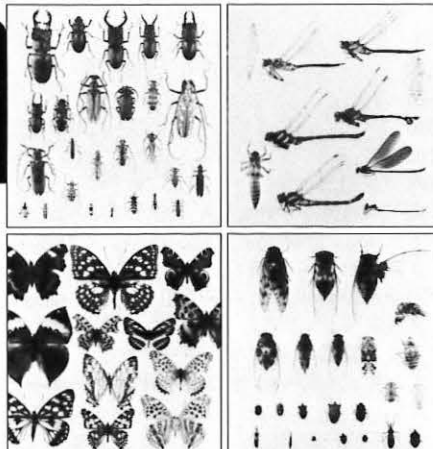
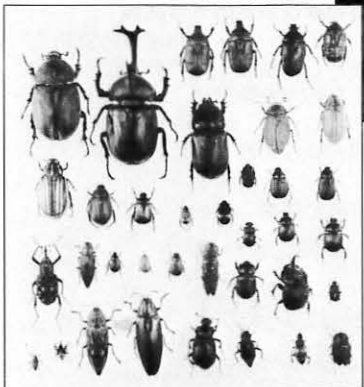
むし

くらしとかいかた

今まで、気にもとめなかった自然の中で昆虫たちが生きている。みんなも、虫になって自然の中を歩いてみよう。きっとすばらしいことに出会えるはずだ。

B5変形 84ページ 580円

ひかりのくに株式会社
〒543大阪府天王寺区上本町3-2



たのしいのりものが待っています。



1人回
100円
(1才まで無料)

団体割引
(30人以上)
……1割引

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりものがあります。

天王寺動物園の機関紙

月刊 **なきごえ**

ご購入をお奨めします。

年間購読料 1,100円 (含、郵送料)

お申し込みは、**大阪市天王寺動物園協会**へ

TEL 06-771-0201



フィルムポン!

世界で初めて「ドロップイン機構」を搭載!
フィルム装てんが新しくなった—フジカ
オートエース&オートメイト新登場!

フジカラーHR

—FUJICA—
オートエース
DL-100 DATE
標準価格49,800円

かろうの大林

桜橋本店 ☎341-8091
三番街店 ☎372-5031

◎ 動物のことなら あらゆることにお役に立ちます。

- 飼育指導 (ペットよろ)
- 飼育指導 (ペットよろず相談)
- ふれあい子供動物園
- ふれあい動物写真会
- 撮影用動物モデルリース
- 動物(ペット)、教材用生物販売、リース、交換、引取り、預り
- 各種飼料、器具販売、配達

自然から学ぶおもいやり

株式
会社

アニマ

(いきもの110ばん)

☎ 06-863-1025 (代表)

〒561 豊中市利倉2丁目22-2

全国の愛犬家の共感と呼ぶ
無比の愛犬歌集

歌集 犬の歌

動物文学会主宰
平岩米吉著
(天金美装・箱入
B6判・270頁
2500円・千不要
直接申込をう)

著者が、約40年の間に、共に暮した70余頭の犬の生と死を歌った419首を収録。同時に、その誕生より老齢に至る写真47図を収め、犬の一生の生態写真集でもある。

動物文学会 〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2
電話(03)717-1659・振替東京5-9800

日本図書館協会選定
全国学校図書館選定

狼

その生態と歴史
犬科生態研究所長
平岩米吉著

A5判・320頁・
口絵挿絵等140図
定価2800円・千300円

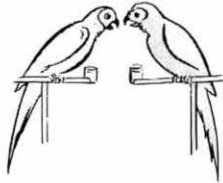
待望の日本狼の正史ついに完成!

☆犬科動物の研究者として、当代随一の著者が、数十年にわたり収集した正確な資料を、生態学の目をもって描いた空前の書。
☆日本狼は、大口の真神とあがめられた古代より、のちには病狼と恐れられ、やがて絶滅に至るまでの経緯を詳述。

主な目次

序 狼への幻想と現実	5 狼の伝説
1 犬科の分類と解説	6 日本狼の特徴
2 犬と狼の関係	7 日本狼の絶滅
3 日本狼の歴史	終 狼を飼った人々
4 狼狩の記録	

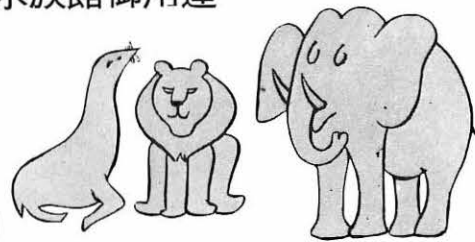
発売 株池田書店 東京都新宿区弁天町43番地
振替・東京4-165425



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円



有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517
飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494

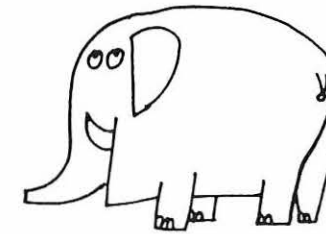
たのしい動物のお話は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数ヵ所にあります

1回 20円

天王寺動物園内



南園売店

代表者 松谷良子

大阪市天王寺区茶白山町6-74
電話(06)771-7110番

園内でのお写真は…
動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機しておりますのでご説明に伺いました際は、よろしくお願ひ致します。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせていただきます

国際航空写真株式会社

TEL 06-856-7444

新鮮です、さわやかです。フルーツが入った、おしゃれなヨーグルト。



果肉とソフトヨーグルト
の名コンビ

自然の
おいしさ



雪印ヨーグルト

●ブルーベリー・キウイフルーツ・ストロベリー・オレンジ・カクテル

なきごえ 昭和58年4月15日発行(毎月1回15日発行)

第19巻 第4号 (通巻212号)

編集 / 大阪市天王寺動物園

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74

発行人 / 大阪市天王寺動物園協会 中川道朗

電話 大阪 (06) 771-0201

印刷所 / 株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共)

振替口座 大阪 37823

1年継続(12部) 1,100円(送料共)

編集委員

橋本 一郎・土井 良彦・樽本 勲・中川 哲男・宮下 実・長瀬健二郎
神原 安昭・森本 委利・大野 尊信・葭谷 文彦・農本 武志・野口 秀高
仲谷 登・小出 雅三・板野 健一・石島 宏胤・柴田 総